

日中で糖尿病対策探る

徳島大病院で
研究成果発表

日中の糖尿病研究者が最新の研究成果を披露する「アジア糖尿病フォーラム」が16日、徳島大病院で開かれた。中国から5人、徳島、東京、神戸大学から8人の研究者が参加し、講演とパネル討論で研究内容を説明した。

このうち、南京大学化学化工学院の張艶教授

は、中国で漢方として使われる物質が治療に役立つ可能性がある」と報告。

徳島大学大学院の安友康二教授(免疫学)は、免疫細胞を活性化させて1型糖尿病を引き起こすCD98と呼ばれる物質を抑制する抗体を制作、モデルマウスで検証し効果を俾たと発表した。

フォーラムは、アジアの中でも糖尿病患者がきわめて多い日中の研究者が、それぞれの研究成果を共有して対策に生かす

ため、昨年から開かれている。
(大塚康代)